

# 研修テーマ

## 日本とデンマークの交通機関の違い

登別市立幌別中学校 1年 村元 優希

僕は、「日本とデンマークの交通機関の違い」について調べました。日本とは明らかに違うところがあったので紹介しようと思います。

まず、電車についてです。電車に乗る時は、駅に行き券売機で乗車券を買います。ここまでは同じです。このあとが日本と違い、改札が無いので、そのままホームへ行き、列車にのります。車内で、もし改札係の人が廻ってきた時には、自分の切符を見せます。無人駅にも、大きな駅と同じように、エレベーターや案内の電光掲示板があります。また、デンマークで



は、時刻表どおりの時間に列車が来ることはめったにありません。しかし、乗り遅れるのも困るので、時間に余裕を持って行動しなくてはなりません。日本でいう「Suica」のようなカードもありました。僕が見かけたのは「Check in d」と「Check u d」の2種類でした。これらのカードを使って乗車する時は、ホームにある機械にかざして“OK”と表示されれば、電車に乗ることができます。電車のドアにはボタンが付いていて、それを押してドアを開けて乗ります。扉が閉まる時には、ドアの上の赤いランプが点滅して知らせてくれます。電車の座席は、市民会館の大ホールの席のように座面が上がるものと、一段高くなったところには特急の座席のような立派なものもあり驚きました。座面が上がる席の方には、自転車を固定するホルダーがありました。車内の電光掲示板には、時刻と行先が表示されています。乗車中に廻ってくる改札の際に、もし無賃乗車がわかったら、700クローネ（約12,000円）の罰金を払わなくてはなりません。そして目的の駅に着いたら、またボタンを押してドアを開け、列車から降ります。ホームから階段かエスカレーターを使って上にあがれば、それで終わりです。切符の回収もありません。ちなみにデンマークでは、よほど大きい駅以外は無人駅がほとんどだそうです。

次はバスについてです。バスは、都市部と地方では乗り方が少し違うのですが、今回はコペンハーゲンでしかバスに乗らなかったため、その時のことを紹介します。まず自分の乗りたいバスがあと何分で来るのかを、バス停の電光掲示板で確認します。バスが来たら、前から乗って、そこで料金も払います。ただし、「コペンハーゲンカード」を持っている場合は、それを見せて乗ります。降りる時は、一つ手前のバス停を過ぎたらブザーを押します。すると「BUS STOP」と



いうライトが光ります。停車したら、後ろのドアから降りるという仕組みです。料金を先に払うところが登別と違いました。あと、コペンハーゲンでは、とても長くて大きなバスが走っていました。

今回僕は、公共交通機関の違いを色々と知ることができました。日本も海外の良いところを取り入れていけたらいいのではないかと思いました。そして、この研修をとおして、他の国の交通機関についても知りたいと思いました。

## デンマークの公共施設について

登別市立鷺別中学校 2年 本田 優美香

私は、「デンマークの公共施設」を自分の研修テーマに決めて、主に日本と違う点を調べてきました。

まず、最初に紹介するのは、デンマークの市役所です。私が行ったのはファバー・ミッドフュン市の市役所でした。この市役所は150人以上が働いていて、市長は4年に一度、25人の議員の話し合いで決めるそうです。建物は1970年頃に建てられ、2005年くらいから少しずつ増改築されて、今のようないな建物になっているそうです。学校のサポートなどもしていますが、日本と違うと思った点は、オリジナルのアートや音楽を作って披露しているところでした。日本ではそういうのはあまり聞かないと思い、日本との違いを実感し、デンマークはすごいと思いました。

二つめは、図書館です。リングの街なかにある公共の図書館で一番印象に残ったのは、大きいおもちゃがたくさん置いてあったことと、壁や扉に描かれていた絵です。日本の図書館は、静かに本を読む場所なので、おもちゃをこんなにたくさん堂々と置いてあるのも珍しかったし、扉に描かれたイラストも迫力があり強い印象を受けました。



リングの公共図書館内

また、座る場所も様々な場所に確保されていたし、私の家の近所の図書館に比べて、パソコンがたくさん置いてあり、登別の図書館でも増やしてくれたらいいな、と思いました。

最後は、デンマークの施設で見た「トイレ」を紹介します。デンマークのトイレは場所によって、造りが少し変わっているところがありました。まずは、コペンハーゲン空港のトイレです。日本と違うのは、トイレトペーパーのホルダーと個室にあるゴミ入れです。日本ではだいたい1ロールがホルダーに収まっていますが、ここでは修正テープの中身のような大きなものがケースに収まっていて、引っ張り出して、ギザギザでちぎる、という方式でした。ゴミ入れは日本にあるゴミ箱ではなく、袋でした。次はショッピングセンターのトイレです。日本と違うのは、ペーパーホルダーと流すボタンです。このホルダーは中に大きなロールペーパーが詰まっていて、真ん中の穴から引っ張り出してちぎる、という方式です。水を流す方法は、日本ではレバーやセンサーですが、ここは水のタンクの上にボタンが付いていました。次に市役所のトイレは、ペーパーは日本と同じ様な形ですが、流すボタンがタンクの上に付いていました。また、リングフリー校や森の幼稚園、ホストと行った海のトイレには、ペーパーをたくさんスト

ックできる縦長のケースが壁に備えてありました。オリンピック関連施設のトイレでは、壁に円形の流すボタンが付いていました。

このように、実際に暮らしてみると、細かいところにもいろいろ日本との違いがありました。私が今回見てきた中で、デンマークの公共施設は、日本よりデザインに凝っていてすてきなものが多いと感じました。しかし、デンマークのトイレではペーパーが遠かったり、ちぎりにくかったりと、良いことばかりではありませんでした。デンマークの良いアイデアを、生活の中に取り入れてみるのも楽しいと思いました。

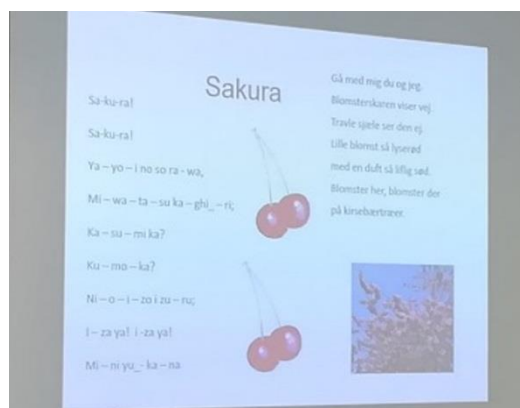


## デンマークの音楽について

登別市立西陵中学校 2年 石山 明寿香

私は、「デンマークの音楽」について調べました。日本とは違うところがたくさんあったので、紹介します。

まず、朝の会についてです。私の学校の朝の会は、各クラスであいさつや欠席者の確認をしたり、一日の目標を決めたり、また、先生からの連絡事項を聞く等が普通だと思います。しかし、デンマークのリングフリー校の朝の会は、音楽ホールに全校生徒が集まり、行われていました。私たちが訪れた日は、最初に全員で、3曲歌を歌いました。その中には、日本の「さくら、さくら」もありました。ローマ字で書かれた日本語の歌詞がスクリーンに映し出され、みんなが、それを見ながら日本語で歌ってくれたのが、とても嬉しかったです。歌の伴奏は、日本ではピアノやCDが普通かと思いますが、ここでは、ピアノの他にバイオリンの伴奏もありました。その音楽ホールは、きれいに装飾されていて美しかったし、それを見て、とても楽しい気持ちになりました。また、どの生徒も大きな声で歌を歌っていたのがとても印象的でした。



次に、ホストファミリーの家での音楽についてです。ホストファミリーの家にはピアノがありました。私がピアノを弾くと、とても喜んでくれて、一緒に幸せな時間を過ごすことができました。

リングフリー校でのお別れ会の時に、私はピアノを弾き、春花さんはフルートを演奏しました。日本でピアノを弾くと、みんな「すごいね。」と言ってくれますが、それは基本的に指の動きなどについてです。しかし、デンマークの人たちは「芸術の面で感動した。」などとほめてくれました。喜び方も違って、ただ拍手をするのではなく、大きな拍手を笑顔でしてくれました。私の音楽を理解



してくれる人たちが、この国にはたくさんいるのだとわかり、ますますデンマークのことが好きになりました。

最後に、デンマークで人気のあるデンマーク人の音楽家などを紹介します。まずは、「ルーカス・グラハム」というグループです。代表作に「7 Years」という曲があります。歌詞にとっても重みのある良い歌だと思いました。また、私たちがホームステイをしたファボー・ミッドフュン市にも、この街出身の有名なクラシックの作曲家がいます。それは「カール・ニールセン」という人です。リングの人たちはとても誇りに思っているそうです。



カール・ニールセン

これらの経験から私は、デンマークの人々の生活には、たくさんの音楽があふれていて、身近にあるものだと知りました。また、彼らがクラシック音楽に対してとても誇りを持っていることや、芸術的なものに対する関心の高さを知り、デンマークの人たちが大好きになりました。またいつかデンマークに行き、デンマークの人たちのためにピアノを弾いてみたいです。

## デンマークのスポーツについて

登別市立緑陽中学校 1年 山根 大翔

僕の研修テーマは、「デンマークのスポーツについて」です。デンマークで人気のあるスポーツなど、いろいろ発見したことを紹介したいと思います。

デンマークで一番人気のあるスポーツは「フットボール」です。デンマークでは、30万人以上のフットボール選手がいるそうです。僕たちは、リングの子供たちのフットボールクラブと一緒にプレーしました。大人も一緒に楽しみました。他にもバドミントンやスイミング、セイリングなども人気だそうです。デンマークの子供たちは、スポーツをする時、まず楽しむことが第一と考えているそうです。男子も女子もフットボールが大好きで、よくするそうです。

僕たちが訪問したリングフリー校には、ボールなどを使って遊べる体育館やトランポリンがある体育館、ジムなどがありました。その学校での選択授業で、僕はドッジボールのような球技を選びました。日本のドッジボールとは少しルールが違いました。



ボールを当てられたり、投げたボールが相手にキャッチされたりすると、外野に行きます。次に内野の人が全員アウトになると、最初から外野にいた人が内野に来て、その人たちもアウトになったら、そのチームは負けというルールです。僕は競技中、相手チームの人にボールを当てたり、僕に投げられたボールをキャッチしたりできました。チームメイトみんなのおかげで、僕のいたチームは優勝しました。すごく楽しかったです。トランポリンを選択した人たちも楽しそうに跳んでいました。僕はトランポリンもやってみたかったです。ジムを選択した人はいませんでした。僕はそれもやってみたかったです。



最終日のコペンハーゲンで、オリンピック関連のスポーツ施設を見学しに行きました。この施設は1982年に建てられました。中には、いたる所にデンマークの歴代有名選手の像が飾られていました。僕たちは、実際に試合が行われたバドミントンコートや一流選手しか使えないトレーニングジム、卓球の練習場、デンマークの代表選手たちが練習をするフットボール場など、一般の人が普通は入れない場



所を案内してもらいました。

僕は、この研修テーマを通して、フットボールを中心に、デンマークで人気のあるスポーツやとてもスポーツが盛んなのだということがわかりました。似たようなスポーツでも、日本とルールが同じだったり、全く違ったり、いろいろなことを知りました。スポーツは言葉が通じなくても楽しめる素晴らしいものだと思います。

## デンマークの建物について

登別市立緑陽中学校 3年 鈴木 春花

私は、「デンマークの建物」について調べました。日本とは違うものを多く発見してきたので紹介します。

まず、コペンハーゲンに到着し、ひとたび外に出ると、日本とは全く異なるデザインの建物や道路標識がありました。建物は、ヨーロッパのおしゃれなイメージそのもので、日本とは違い、レンガ造りの家が多かったです。また、建物の外壁は、様々な色が使われていて、とても鮮やかでした。到着後は天気も良く、青空が映えるきれいな風景で、夢の中にいるような気分でした。道路はアスファルトではなく、石畳の道路があったりしました。様々な種類の石畳があり、とてもきれいなものでした。信号機は、日本と比べて低く、歩行者用信号は時間が短かったです。自転車用の信号やレーンもあり、本当に自転車の普及率が高かったです。車はフォルクスワーゲンやプジョーなど、ヨーロッパ製のものが多かったです。自転車は、日本のものとデザインにあまり差はありませんでしたが、レンタル用の自転車にはディスプレイが付いていました。



コペンハーゲン市内の建物

駅等の公共施設だけでなく、一般の家も、とてもすてきな造りで、ヨーロッパらしいと思いました。

私はこの研修テーマを通して、大きく二つのことを学びました。

一つは、デンマークにも独自の文化があり、それらは、建物や人々の生活様式に大きな影響を与えているということです。特に、日本的なものである「和」とヨーロッパの「洋」はとても異なる文化なのだということを学びました。



コペンハーゲン市内の建物

もう一つは、一歩自分の国から飛び出すと、そこには、これまでの自分には無い新しい世界が広がっているということです。このことから、デンマーク以外の国にも訪れてみたいくなりました。

今回の訪問を通して、デザインというものに対する自分の視野が広がりました。この経験を活かし、今後は世界の様々なデザインに注目していきたいと思います。

## デンマークの子供の遊び

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 和田 笙

僕は、「デンマークの子供の遊び」について調べてきました。デンマークのホストの家は、ゲーム機やソフトがたくさんありました。僕のホストはWiiやプレイステーションを持っていました。日本でも有名で大人気の「スーパーマリオブラザーズ」や「マリオカート8」も持っているのを見て、マリオはデンマークでも人気なんだなと思いました。また、中学生や高校生を中心に「フォートナイト」というゲームが流行っていました。ホストのペーターも持っていて、大好きだと言っていました。しかし、デンマークでも子供のゲームの時間が長すぎるのが問題になっているそうです。ファボー・ミッドフュン市長は、「インターネットを通してゲームをすることは、他の人たちとたくさん関わりを持てるから、とても社会的である。悪いことばかりではない。ゲームの分野を極めれば、それを武器に海外へ出ていくこともできる」と言っていました。

デンマークの伝統的な遊びとしては、「トランポリン」があります。だいたいの家の庭にはトランポリンがあり、学校の体育館の床にも大きなトランポリンが作られていました。僕のホストの家にもあり、遊ばせてもらったら、とてもよく跳ねて楽しかったです。また、「縄跳び」や「かくれんぼ」もデンマークの伝統的な子供の遊びです。これらは僕たちも小さい時からしている遊びなので、同じだなと思いました。



最近流行っている遊びで「ディアボロ」というのがありました。これはジャグリングの一種で、お椀を2個くっつけたような形のコマを、糸でつないだ棒をあやつり、落とさないようにクルクル回す遊びです。学校にも置いてあったので、僕もチャレンジしてみましたが、全くできませんでした。コマを回すのさえ難しかったです。

デンマークで一番人気がある遊びは、「サッカー」です。学校に大きなサッカー場があり、みんなそこでサッカーをしていました。僕もホスト達と一緒にサッカーをしました。ボールがあれば、いつでもどこでもできるのが人気の理由だそうです。学校の中にはサッカーのボードゲームもありました。そしてビリヤードの台もありました。休み時間には、みんなそこに集まって遊んでいました。

日本と同じ遊びや違う遊びなど、デンマークにもたくさんの遊びがあることを知りました。僕が見た「デンマークの子供の遊び」は、とにかく楽しむ、というところが日本と全く同じでした。ゲームで対戦したり、みんなで1つのボールを追いかけたりして、とてもにぎやかで楽しかったです。

「遊び」は、みんなをつなげてくれる、  
「言葉のかわり」だと思いました。言葉は  
通じなくても、みんな一緒に遊ぶことで、  
仲良くなれるということを実感できまし  
た。

